

序 章

札幌市立義務教育学校 定山溪学園の概要

『もっと、札幌。』



1 札幌市立定山溪学園について

(1) 学校沿革史の概要



札幌市立定山溪小学校

明治37年（1904年）5月27日公立定山溪簡易教育所として開校



札幌市立定山溪中学校

昭和22年（1947年）6月15日札幌市立石山中学校定山溪分校として開校

令和7年（2025年）4月1日 **札幌市立義務教育学校定山溪学園**として開校



○ 学校沿革史の概要

明治37年（1904年）5月27日	定山溪小学校が公立定山溪簡易教育所として開校する
昭和22年（1947年）6月15日	札幌市立石山中学校定山溪分校として開校する
令和3年（2021年）3月8日	札幌市教育委員会の義務教育学校の設置方針が策定され、定山溪小学校と定山溪中学校が再編・統合され、義務教育学校が設置されることが通知される
令和3年（2021年）11月10日	第1回（仮称）定山溪地区義務教育学校新築検討委員会が開催される
令和4年（2022年）5月17日	第1回義務教育学校検討委員会が開催される
令和5年（2023年）10月12日	義務教育学校の新築校舎建設工事開始
令和5年（2023年）12月12日	札幌市学校設置条例の一部を改正する一部改正「定山溪地区新設義務教育学校」を「札幌市義務教育学校定山溪学園」に改める
令和6年（2024年）4月25日	コミュニティ・スクール開始
令和7年（2025年）2月28日	新築校舎竣工
令和7年（2025年）3月24日	札幌市立義務教育学校定山溪学園開校式
令和7年（2025年）4月1日	初代校長 関根 昌彦 着任
令和7年（2025年）4月6日	1学期始業式（2年生～9年生計35名）
令和7年（2025年）4月7日	第1回入学式（1年生3名、7年生8名入学）

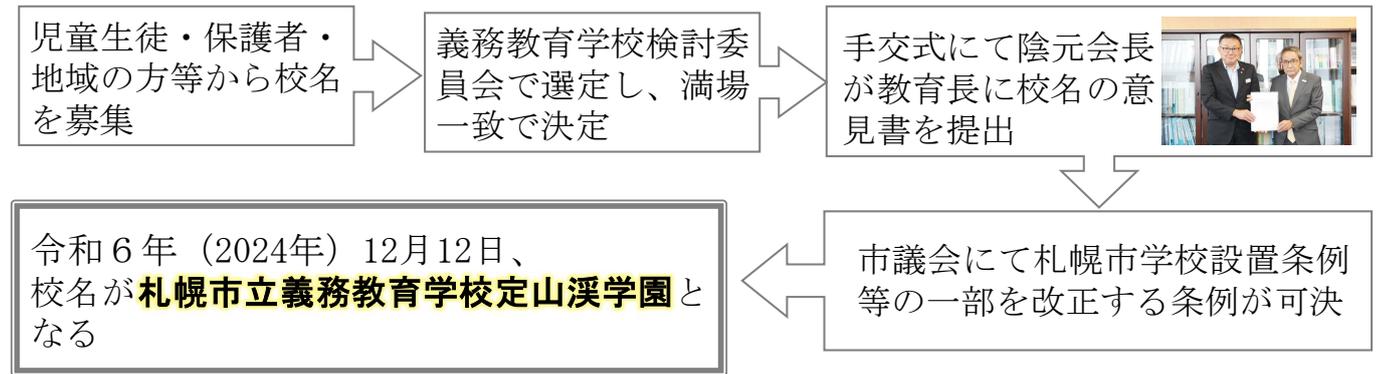
(2) 定山溪学園の校区



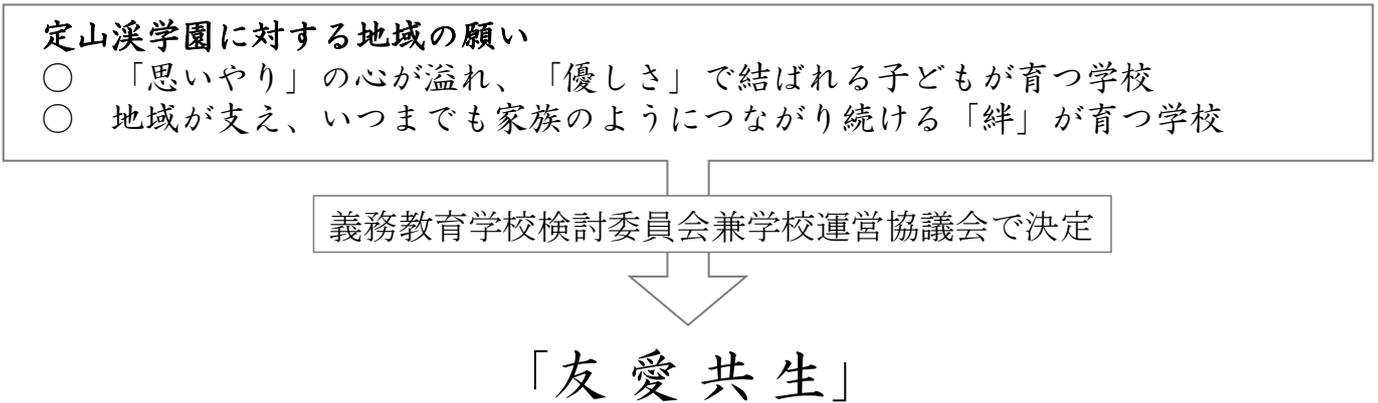
- 校区は次のとおり。
 - ・ 小金湯
 - ・ 定山溪温泉東1丁目～4丁目
 - ・ 定山溪温泉西1丁目～4丁目
 - ・ 定山溪
- 通学地域は、都心から約28km離れた豊平川沿いの溪谷温泉地域である。
- 支笏洞爺国立公園内に位置し、四季折々豊かな緑と水に囲まれた美しい自然環境である。
- 近年、小金湯、豊滝、簾舞、藤野からバスで通う生徒が増えてきている。
- 校区面積は約458.7平方キロメートルであり、札幌市で最も広い。
- 公共交通機関は以下のとおり。
 - ・ じょうてつバス12番 真駒内駅・定山溪線 定山溪学園下車 徒歩5分
 - ・ じょうてつバス7、8番 札幌駅・定山溪線 定山溪学園下車 徒歩5分

(3) 校名と校訓について

① 校名決定までの流れ



② 校訓について



③ 校名の選定理由

- (1) 本学園に通学予定の児童・生徒、保護者に加え、地域の方々から広く校名を募集したところ、本校名案の得票数が最も多く、一番支持された名称であった。
また、検討委員会においてもこの集計結果を受けて、満場一致で本校名案を選定した。これらのことから、定山溪地区に新設される学校の校名には本案が最もふさわしいと判断した。
- (2) 本学園は定山溪小学校と定山溪中学校の統合であり、歴史ある地域になじんだ名称である「定山溪」という名前を残したいという思いと、新たな学び舎で育っていく子どもたちに、これからも豊かな自然が溢れる定山溪の地域を大切にして、他者への思いやりと自らの誇りをもって仲間と共に成長してほしいという願いが込められている。

④ 校訓作成の流れ

- (1) 校訓を作成するに当たっての考え方
 - 定山溪地域の願い 定山溪地区小中一貫した教育グランドデザインが込められたものにする。
 - 覚えやすく、忘れづらいものでありながら、印象深いものとするため、また、講話などでも使用することを鑑み、地域の願いを漢字4文字で組み合わせる。
- (2) 児童生徒・保護者・地域の方から定山溪地域の願いが込められた漢字を選んでもらう。結果は以下のとおり。
「思いやり」の心が溢れ、「優しさ」で結ばれる子どもが育つ学校 = 友愛
地域が支え、いつまでも家族のようにつながり続ける「絆」が育つ学校 = 共生

(4) 校章について



【作品タイトル】
「定山溪から未来へ」

【キーワード】
・天狗岳 ・溪谷 ・羽

【作品コンセプト】

前景は溪谷と水の流れ、後景の山は天狗岳をモチーフとしており、校章から定山溪を連想させることを目指した。また、前景の溪谷は羽も意味し、定山溪の子供たちに個性の翼、可能性の翼を広げて未来へ羽ばたいて欲しいという願いを込めた。六つの水の流れが元気に弾ける小学校での6年間を、後ろに聳える三つの峰が大きく構えて自律する中学校での3年間を表している。

「定山溪」という名前は観光名所として広く知られており、定山溪の人もまた自分たちの地域を大切にしているということから、「定山溪」の三文字をそのまま校章に用いた。この作品は、定山溪という土地の自然の美しさを基に、子供たちの成長への願いを込めたものである。

※ 校章のデザインについては、札幌市立大学に協力していただき、コンペティション形式で児童生徒・保護者・地域の方の投票結果を参考に、義務教育学校検討委員会兼学校運営協議会で決定した。

○ 校章作成の流れ

- ・令和5年6月に定山溪まちづくりセンターにて、陰元会長が札幌市立大学の教授に義務教育学校の校章作成の依頼をできるかどうかを確認したところ、前向きな返答があった。
- ・同月に小学校が市立大学地域連携課の課長補佐と主任と打合せをもつことができた。依頼は受けることが可能という回答を受け、コンペティション形式で実施したり、依頼にかかる費用の面などを相談したりした。また、依頼に当たっては、応募してきた学生たちに向けて、校章制定への学校や地域等からの思いや願いを聞き取る場を設けてほしいとのこと。
- ・令和6年1月30日、市立大学の学生が小中学校に来校し、児童生徒に学校や地域に対する思いを聞き取る。
- ・令和6年3月、19の校章デザイン案の児童生徒・保護者・地域関係者・教職員の投票を行なう。
- ・令和6年4月、義務教育学校検討委員会兼学校運営協議会にて投票結果を参考に、校章デザインを決定する。

○ 最優秀賞に選出された理由

最多の得票を得た作品であり、定山溪を代表する自然の中から、溪谷を流れる「豊平川」と、高く聳える「天狗岳」がモチーフとして取り入れられており、親しみがもてる。また、新しい学園で学び育つ9年間の子供たちの姿が、定山溪にゆかりのあるものを通して、立体的かつ象徴的にデザインされた奥深い作品である。加えて、「定山溪」の3文字が前面に配置されており、斬新なデザインとの評価が高く、新しい定山溪学園の明るい未来を象徴するにふさわしいデザインであると考え、最優秀作品として選定した。

(5) 定山溪学園校歌

「四季・定山溪」定山溪学園校歌

作詞 金田一 仁志 作曲 八木 幸三

一 熱き思いの 泉わき
とうとう流る 谷の里
踏みだす 一步 ことほぐは
未来につづく 春こみち
ああ わがまなびや 定山溪学園

二 夏の日ざしは 豊平の
清き流れに 照りかえす
見あげれば ほら もくもくと
夢のカタチが 湧きあがる
ああ わがまほろば 定山溪学園

三 錦に染まる 橋の上
かそけし落葉 舞いおりる
すくと立つは しらかんば
空のたかみを ゆびさして
ああ わがふるさと 定山溪学園

四 雪のふとんに くるまって
ながき冬こそ はぐくめよ
強いきずなと やさしさと
寄りそい 生きる その心
ああ わがいとしき 定山溪学園

プラットフォーム

ああ 人生の 出 立 点

○ 作詞家 金田一 仁志 氏

芸能事務所『キンダイチーズ・パフォーミング・アーツ・グループ』主宰し、様々な作品の演出と脚本を手掛けている。現在、藤女子大学非常勤講師等を務めているほか、毎週金曜放送の『Sチョイス』パーソナリティを務めている。

○ 作曲家 八木 幸三 氏

元札幌市立中学校教諭であり、現在、札幌音楽家協議会会長を務めている。平成26年の札幌市文化奨励賞をはじめ、数多くの賞を受賞している。これまでにオペラ・歌曲・合唱・室内楽作品などを多数作曲している。

○ 校歌作成に当たっての基本的な考え方

歌詞については、校名と同じく、児童生徒・保護者・地域関係者・教職員などから広く思いや願いを募り、「みんなで決めた」という気運を高めた形で決定する。校歌の歌詞に取り入れたい「ことば」を児童生徒・保護者・地域関係者・教職員から募集し、集まった「ことば」を作詞家の方に引き継ぎ、歌詞を作成してもらう。

作曲については、過去に校歌などの作曲を手掛けた実績のある人物の方から人選を進め、定山溪・南区・札幌、ひいては北海道に所縁のある人物で選びたい。

○ 初めての校歌お披露目

令和6年8月26日、定山溪小学校体育館にて校章・校歌お披露目会を実施し、作曲家 八木 幸三 氏の指揮に従い、作詞家 金田一 仁志 氏に定山溪小学校及び定山溪中学校の教職員が児童生徒・保護者・地域の方を前に「四季・定山溪」定山溪学園校歌を披露した。

(6) 児童生徒数

令和7年(2025年)4月1日現在

	Jブロック				Zブロック			Kブロック		小計	合計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年		
通常											
特支											

(7) 教員

	校長	副校長	教頭	主幹	教諭	国語	社会	数学	理科	外国語	音楽	美術	保健	技術	家庭	特支	合計
前期		1		1	4							1				2	9
後期	1		1			1	1	1	1	1	1		1	(1)	(1)		9

(8) 職員

事務職員1 用務員1 校務助手1 学校司書1 スクールカウンセラー1
巡回栄養士1

(9) スクールスタッフ

相談支援パートナー(前期1後期2) 学びのサポーター(前期2後期2)

(10) 学校長

初代	関根 昌彦	2025年4月～			
第2代					
第3代					

(11) 校舎平面図及び教室配置図

